

第35回ソフトボール大会報告

(社) 埼玉県放射線技師会
総務常任理事 矢部 智

休日・祝祭日は、埼玉県放射線技師会や日本放射線技師会の講習会やセミナー等のイベントが埋め尽くしています。その合間をぬって10月31日（日）、東京石油健保グラウンド（東松山市）において第35回ソフトボール大会の開催を予定いたしました。

このように忙しい毎日の中、108名、9チームの参加申し込みをいただきましたこと、誠にお礼申し上げます。本大会は、時間的に余裕をもったプログラムを作成し、当日を心より楽しみにいたしていましたが、不運にも季節外れの台風が上陸してしまい中止とさせていただきます。日程の都合上、延期開催ができませんことを心よりお詫び申し上げます。

参加予定チーム

賛助会員	MITAYA（三田屋製作所）
賛助会員	東洋メデック（株）
賛助会員	TMCA（東芝メディカルシステムズ）
会員	埼玉医大（ダーツ工務店）
会員	POCKIES（ポッキーーズ）
会員	ソルティーズ
会員	上尾中央総合病院
会員	第6地区会
会員	埼放技 チーム馬車馬

医療被ばく相談セミナー開催報告

(社) 埼玉県放射線技師会
公益委員会 星野 弘

標記セミナーを下記日程で開催しましたので報告します。当日は、平日の業務終了後にも関わらず30名の参加がありました。また、その中には看護師さん(2名)の参加もあり、医療被ばくに対する関心の高さが伺えました。

日 時：平成22年11月18日(木) 18:30~20:30

場 所：埼玉会館(7階 7A号室)

講 師：東松山市立市民病院 工藤 安幸氏

内 容：「医療被ばく相談の時に役立つ基礎知識」

講義内容は、自然放射線など身の回りの放射線のお話から始まり、検査で受ける被ばく線量の事や、その評価方法など、また、患者様説明時に大切なことや、対話の進め方など事例を踏まえたお話もあり、大変わかりやすい講義でした。また、質疑応答では、行為の正当化や防護の最適化に関する内容もあり受講生の熱心さが伝わってきました。昨今、情報メディアの普及に伴い医療被ばくに関する報道をよく見かけようになりました。また、その情報を見聞きする患者様の医療被ばくに対する関心(不安)も高まっています。しかし、その中には間違った情報も少なくありません。そのような中、医療における放射線の専門家である私たち診療放射線技師が適切に対応していくことができればと考えます。今回受講した内容を日常業務の一助としてに生かして頂ければ幸いです。

最後に、今後も医療被ばく相談セミナーを企画いたしますので会員の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



講師：工藤 安幸 氏



会場

第2回マネージメントセミナー開催報告

(社) 埼玉県放射線技師会
副会長 橋本 里見

平成22年11月27日(土)に第2回マネージメントセミナーを開催し、放射線業務における管理者および次世代管理者候補の14名が参加されました。

今回も第一三共株式会社の土田講師に、組織の活性化や人材育成の手法について講演をしていただきました。受講者が一方的に聴講する方法とは違い、グループでの議論や講師とのやり取りなどを含めた参加型といわれる講演でした。

今後について、グループ討論は長い時間を要するため半日程度のスケジュールでは十分ではなく、より深い内容にて行うマネージメント手法習得を目的とした講習を取り入れてはどうかと助言を受けました。

来年度も継続して開催する予定ですが、講師の助言を参考にし、目的を明確にした企画を立て、2日または3日開催としてより深い内容を討論する方法も検討していきます。技師長各位におかれましては、次世代管理職候補者とともに来年度開催の折には是非ご参加いただき、診療放射線技師の資質、マネージメント能力共に向上し、病院経営に貢献できる診療放射線技師の育成にお力添えをいただけますよう、よろしくお願いいたします。

プログラムは以下のとおり (敬称略)

- 1、組織の活性化と人材育成 その2
第一三共株式会社 埼玉支店学術課
医療環境担当 土田 和智

第1回および第2回の参加会員所属施設

春日部市立病院	磯部クリニック
丸山記念総合病院	小川赤十字病院
防衛医科大学校病院	中島病院
東松山医師会病院	川口工業総合病院
埼玉社会保険病院	厚生連熊谷総合病院
(財) 埼玉県健康づくり事業団	石心会狭山病院
国立障害者リハビリテーションセンター	さいたま市民医療センター
獨協医科大学越谷病院	朝霞台中央総合病院
豊岡第一病院	

ディスカッション中の会員



第1回地域読影セミナー開催報告

(社) 埼玉県放射線技師会
 学術常任理事 富田 博信

平成22年4月に厚生労働省医局長より、『医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について』という文章が提出された。この中で診療放射線技師が実施することができる業務の具体例として、『画像診断における読影の補助を行うこと』及び『放射線検査等に関する説明・相談を行うこと』が記され、今後の医療においては診療放射線技師に対し読影能力を求めてきている。

そこで、県内全体の読影能力向上を図るため、地域読影講習会を開催した。第1回セミナーは小川赤十字病院、5階会議室にて開催され、乳腺、上部消化管、CTにおいて、少人数、グループ学習方式にて行った。それぞれ読影を行ってもらい、納得するまで学習し、活発なディスカッションが行われた。参加者は18名でそれぞれ自分のレベルにあった学習ができ、「参加して非常に楽しかった」と好評を得た。以下に当日のプログラムを示す。今後、会員の皆さまの活発な参加を期待する。尚、第2回は平成23年3月26日(土曜) 春日部市立病院での開催を企画している。

最後に今回セミナー開催におきまして小川赤十字病院の皆様にご多大なご尽力をいただき感謝申し上げます。

内 容：上部消化管：講師 大森、志田、田中
 乳腺 ：講師 尾形、越沼、岡田
 CT ：講師 富田 中根

それぞれ実際に読影し、ディスカッション形式にて進める。

時 間：15：00～18：00

45分（レクチャー＋読影）、15分（質疑応答） 合計1時間×3回
 グループ形式にて学習。

グループ学習で小人数制になり、細かく、いきとどいた講義と質疑ができた



乳腺講義



上部消化管講義



CT講義

平成22年度 胸部、上部消化管認定講習会報告

(社) 埼玉県放射線技師会
学術常任理事 富田 博信

平成22年度、胸部、上部消化管認定講習会及び認定試験が終了しました。

胸部の受験者は22名でA認定2名、B認定7名という結果です。初回の受験者よりも2回目以上の受験者の方々が確実に成績を伸ばしており、今回の認定者の多くは2回目以上の受験者の方々でした。上部消化管の受験者は10名でA認定2、B認定2名という結果でした。胸部と比較し、通常胃、横胃の写真評価があるため、認定のハードルも高いと思われます。

本会でやっている認定講習会について改めてご紹介させていただきます。

平成11年より、県内の検診精度の標準化を目的とし、胸部単純、上部消化管、マンモグラフィの検診3モダリティでスタートしました。NPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会の講習会が全国的に普及してきたため、現在では胸部、上部消化管の2モダリティとなりました。そして、今年度よりCT認定講習会がスタートし、現在3モダリティの認定制度を行っております。

内容は、機器・精度管理、検査方法、読影、臨床・病理であり、放射線技師に必須の基本的技術論から臨床的な知識まで網羅されています。

本会では放射線技師の業務を以下のように考えています。

- 1 機器管理、精度管理
- 2 撮影及び検査業務
- 3 読影
- 4 診断
- 5 治療

1から3までを放射線技師、3から5までを医師が担当します。3の「読影」は放射線技師と医師で二重となりますが、以下の理由によります。

- (1) 放射線技師が1次読影、医師が2次読影を行い、読影の正確性を高める。
- (2) 医師が2重読影を行うより、業務の一端を放射線技師が行うことにより、医師の負担を少なくできる。
- (3) 放射線技師が読影に関与することで、上記1,2にフィードバックすることにより、検査精度の向上が期待できる。
- (4) 業務の流れの中で、コミュニケーション・エラーを少なくすることが期待される。
- (5) チーム医療に必要な他職種とのコミュニケーションを円滑に期待できる。

これまでに認定を受けた方々は胸部認定でA認定16名、B認定87名、上部消化管認定ではA認定6名、B認定40名です。本会独自の認定資格ですが、自分の知識、技術の確認の為に受講していただければ幸いです。

MRIセミナー開催報告

(社) 埼玉県放射線技師会
 学術常任理事 富田 博信

晩秋、秋晴れの日曜日、平成22年12月5日に大宮法科大学大学院講堂において日本放射線技師会主催のMRIセミナーを開催した。会に先立ち埼玉県放射線技師会会長、小川清会長から日本放射線技師会の今後の学習プランに関する概要が説明され、開会の挨拶の運びとなり講習会がスタートした。本セミナーは全国的に開催され、受講すると当日、技能試験3級の受験ができる。参加者は埼玉近県を中心に、北は山形、南は福岡から合わせて80名が受講され、盛会にて終了した。終日、タイトなスケジュールの中、受講生においては真剣にメモを取るなどし、興味深く講義を聴講している姿は印象的であった。埼玉県放射線技師会では県単位でのMRIセミナーは現在開催していないので、今後MRI従事者が地元で学習できる機会を作っていきたいと思う。

内容的にも、専門技師認定機構のカリキュラムとの摺合せを行い、一元化した教育内容になるように取り組んで参りたいと思うので、ご期待下さい。

本セミナー開催に当たり多大なご尽力をいただきました日本医科大学付属病院の土橋先生には深くお礼するとともに、当日の講師の先生、実行委員の皆様にも厚く御礼申し上げます。当日のプログラムに関しては以下に示します。



	時間	分	科目	講師
1	09:00~09:45	45	MR装置	青木 郁男 東芝メディカルシステムズ株式会社
		5	休憩	
2	09:50~10:35	45	基礎原理	土橋 俊男 日本医科大学付属病院
		15	休憩	
3	10:50~12:20	90	パルスシーケンスと 画像コントラスト	栗田 幸喜 埼玉県済生会栗橋病院
		60	昼休憩	
4	13:20~14:50	90	アーチファクト・ 脂肪抑制・造影剤	藤田 功 さいたま市立病院
		15	休憩	
5	15:05~15:50	45	画像評価・性能評価	後藤 政実 東京大学医学部付属病院
		5	休憩	
6	15:55~16:40	45	安全管理	土橋 俊男 日本医科大学付属病院
		20	休憩・試験準備・説明	
7	17:00~17:30	30	認定試験	
	17:30~17:45	15	修了式 (修了証書授与)	

平成23年社団法人埼玉県放射線技師会「新春の集い」開催報告

(社) 埼玉県放射線技師会
副会長 橋本 里見

平成23年1月7日(金)、大宮サンパレスにおいて恒例の平成23年社団法人埼玉県放射線技師会(以下本会)「新春の集い」を開催しました。出席者は会員58名(内新入会員11名)賛助会員43名、合計101名が出席され盛会のうちに終了いたしました。

集いの内容は、日頃大変お世話になっている賛助会員の皆様のスピーチ、平成22年度表彰者の峯崎会員のお言葉、そして、将来を担う11名の新入会員から前向きなご挨拶をしていただきました。特別なアトラクションはなかったものの和やか雰囲気の中進行されました。乾杯の音頭では小島会員が執行部を会員が後押しする、賛助会員には共に成長し本会の発展に協力していただくよう呼びかけました。締めは濱守会員に本会の飛躍とご出席の皆様のご健勝を祈念し「一本締め」で締めていただきました。

閉会の辞で堀江副会長が述べたとおり、会の運営は執行部だけで行うことでの発展は望めません。是非とも会員と賛助会員の力をお貸してください。

今後は小川会長が挨拶で申した会員数の伸び悩み、財務状況の厳しさ等課題はあるものの、皆様のご意見を取り入れ、本会伝統の人の和をベースに新しい人材を積極的に活用し前進していく所存です。

最後に、お忙しいところ出席していただいた会員、賛助会員の皆様に心より感謝申し上げるとともに今後も会員の皆様のご協力を賜りたくよろしく願いいたします。



小川会長 挨拶



乾杯の音頭



公衆衛生事業功労者表彰受賞
峯崎 隆 氏 挨拶



挨拶後の峯崎氏と小川会長



第31回日本核医学技術学会総会学術大会
大会長 荒井 孝 氏 挨拶



第57回日本放射線技術学会関東部会研究発表大会
実行委員長 柳田 智 氏 挨拶



新入会員挨拶



歓談



歓談



一本締め音頭



一本締め